

『「あたたかく楽しい学校」を目指した取り組み』

藤枝市立青島北小学校

月別	ピア・サポート活動 ピア・サポートを中心に据えた行事	プログラム	職員研修
4月	・サクランボタイム（ペア活動）	「いっぱい」積み上げステージ 年間を通して積み上げる。 ☆やさしさいっぱい（基礎） 自分のめあてを立てる。友達 のよさを見つける。	・ピア・サポート 研修
5月	・一年生を迎える会 ・ロングサクランボタイム（ペア遠足） ・サクランボタイム（ペア活動）		・子どもを語る会
6月	・サクランボタイム（ペア活動）		
7月	・1年生へのピア・サポート紹介		
8月		☆げんきいっぱい（意欲） めあてに向かって努力する。 友達と力を合わせ挑戦する	
9月			
10月	・友垣運動会		・子どもを語る会
11月	・サクランボタイム（ペア活動）	☆げんきいっぱい（実践） 自分のよさを表現する。集団 でより良いものを創り出す。	
12月	・サクランボタイム（ペア活動） ・音楽集会		
1月	・サクランボタイム（ペア活動）	☆ありがとういっぱい（感謝） 周りの人やものに感謝の気 持ちをもつ。 自分自身や集団の成長を確 かめ、次につなげる。	・教育課程 今年度の実践及 び成果と課題の 報告、次年度の取 組の検討を行う。
2月	・サクランボタイム（ペア活動） ・ペアありがとうの会 ・6年生ありがとうの会		
3月			

1 本校のピア・サポート

本校ではピア・サポートを「三方よしの思いやり」と捉えている。「三方」とは「自分」「相手」「みんな」である。「やさしさいっぱい（人やものに対して思いやりの心をもって接すること）」を基に、「げんきいっぱい」「ありがとういっぱい」を積み上げる「いっぱい」積み上げステージ制を取り、指導を行っている。

2 本年度の取組

(1) 授業において

するどく聴く

今年度本校では、「するどく聴く」を手立ての柱として授業を行ってきた。各学級で「するどく聴く」とはどういうことかを話し合い、各学年具体的な姿を話し合いながら取り組んだ。意見を交換したり、わからないことを相談したりするために、自らほかの人のところへ行く姿や、ペア、グループで話し合う様子がよく見られるようになった。また、考えながら発表を聴くことでそれが反応につながり、発表者を安心させたり、さらに新しい考えを生み出し発表につながったりとピア・サポートを意識した姿もあった。

(2) 特徴的な活動

くつ箱やスリッパの整頓〈提言1・6〉

くつ箱のくつの入れ方（上の段にうわばき、下の段に外履き）や、トイレのスリッパを使った整頓して戻す、ということをも4月から学校全体で指導してきた。見た目の美しさだけではなく、次に使う人が気持ちよく使えるようにするためにする行動であることを各学級で伝え、相手が目の前にいない場合でもピア・サポートになるということ意識づけてきた。トイレのスリッパに関しては、環境委員会が常時活動として児童が使うすべてのトイレの整頓具合をチェックし、昼の放送でランキング形式でよかった場所を紹介している。自分が使っている場所がランクインすると喜びを感じ、次の週も意識しようと思意欲をもって行動に移すことができている。

サクランボタイム〈提言1・4・6〉

不定期で、火曜日または木曜日のロング昼休みを「サクランボタイム」としてペア活動を行っている。各クラス実行委員を中心に遊びを計画し、上級生が下級生の教室までペアを迎えに行くところから活動が始まる。4月にペアが発表され、初めは接し方がわからず会話が少なかったペアもいたが、5月にあるロングサクランボタイム（ペア学年で遠足）で距離を縮め、その後もペア活動を重ねるにつれ、どのペアも仲良く楽しそうに活動する姿を見ることができた。遊びを決める際は、下級生も一緒に楽しめるような遊びを提案したり、ペアでできるようにルールを変えたりなど、異学年のペア活動であることを意識した話し合いをしていた。

ピア・サポート見つけ〈提言4・7〉

各学級の帰りの会で、その日に見つけた友達の良い所やがんばりを発表している。毎日発表する時間を設けることで、日ごろからピア・サポートを見つける目をもつことができる。日常生活の中だけではなく、授業中でのピア・サポートも見つけられるようにした。クラスによっては定期的に紙に良い所などを書き、桜の木など季節のものに絡めて掲示していたり、席替えをするごとに隣の人のよさを発表する機会を設けたりしてきた。

3 本年度の成果と来年度に向けて

「するどく聴く」を意識した授業やスリッパの整頓、友達の良い所の発表や掲示を通して、どんな時でもピア・サポートの意識を高めることができた。サクランボタイムで、異学年と関わる機会を通して、三方よしを実践したり、見つけたりすることができた。

全体としてはピア・サポートの意識がよく表れているが、ひとりひとりを見ると取り組みに差があると感じる。1年を通じてピア・サポートの質を高めていくために、個人に合わせた声掛けをし、子どもたちのがんばりを価値づけていきたい。